

百人一首 上の句と下の句を線で繋ぎましょう ⑪

君がため  
春の野に出でて  
若菜摘む

立ち別れ  
いなばの山の  
峰に生ふる

もろともに  
あはれと思へ  
山桜

朝茅生の  
小野の篠原  
しのぶれど

春の夜の  
夢ばかりなる  
手枕に

世の中は  
常にもがもな  
渚漕ぐ

あまりてなどが  
人の恋しき

花よりほかに  
知る人もなし

わが衣手に  
雪は降りつつ

まつとし聞かば  
今帰り来む

海人の小舟の  
綱手かなしも

かひなく立たむ  
名こそをしけれ